

## 20. 飲食店、ビル、一般住宅、学校におけるゴキブリアレルギー汚染

○橋本 知幸

(日本環境衛生センター)

佐々木 健、元木 貢

(アベックス産業(株))

ゴキブリ由来のアレルゲンBla g1の、ビル、飲食店、一般住宅、学校等の屋内環境における蓄積の実態を調査した。測定はマウス及びウサギのモノクローナル抗体 (INDOOR Biotechnologies製) によるELISAにより行った。はじめに、チャバネゴキブリとクロゴキブリの飼育容器内から、糞や死骸・脱皮殻を含む残渣からアレルゲン濃度を測定したところ、チャバネゴキブリ飼育容器から得られた糞や死骸からは30U/g以上の濃度で検出された。一方、クロゴキブリの糞については、やや低値ではあるが反応があり、大型ゴキブリにも交差性が示唆された。次に、飲食店2件、ビル3件、一般住宅5件、小学校7件から掃除機で採取した屋内塵について、アレルゲン量を定量した。渋谷区四谷の居酒屋厨房床から得られた屋内塵は60U/gを超える極めて高い濃度のアレルゲンが検出された。静岡市内の居酒屋では全体的にアレルゲン量が低値で、ゴキブリの生息状況によってアレルゲン量が異なることが推測された。一方、一般住宅では6件中3件が検出限界未満で、検出された家屋でもその値は低かった。検出された家屋ではチャバネゴキブリは生息していないと考えられるので、今回検出されたアレルゲンはクロゴキブリなど大型ゴキブリに由来するものと考えられた。学校環境では一般住宅と同様に値は低く、冬季夜間の温度状況を考えれば、学校環境から検出されたアレルゲンも、チャバネゴキブリではなく、大型ゴキブリに由来しているものと推測された。